資料８

第1回長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会の概要

開 催 日 ： 平成23年3月2日（水） 13時30分～17時00分
開催場所 ： 長良川河口堰（現地視察）、長島ふれあい学習館（意見交換会）
の主な意見

■地方自治体

○現地調査で現地をみたが、フラッシュ操作は有効であると思っている。塩が入るようなやり過ぎは駄目だが、下流の更なる環境改善のためにも検討は是非行ってほしい。

○更なる弾力的な運用にあたっては、塩害を出さないこと。下流の漁民に配慮すること。分かりやすい効果の資料づくりを行ってほしい。

○地域で連携を行い、より良くするための意見交換の場としてほしい。

■利水関係者

○工水として25万トンの水を長良川に依存している。また、H12の大渇水でも大変助かった。工水、上水のため、フラッシュ操作を行うのはよいが、塩水が入らないように願いたい。

○愛知県の45万人が長良川の水を飲んでいる。長良川上下流の環境改善は望むが、塩水の遡上は困る。より良い操作を行ってほしい。

○堰の運用15年にわたって安全に管理されたことに対して御礼を言いたい。これからも前提条件をしっかり守って管理してほしい。

■農業関係者

○農業にとって「水」は大切であり、塩分があると農業をやっていけない。桑名市長島町の沿岸部では、現在でも塩害はある。このため、河口堰の上流に塩水を侵入させることがあってはならない。

○地盤沈下に対して除塩対策により現在では塩害は見られなくなったが、ゼロメートル地帯であり油断すると再び塩害となる。S58に整備した農業用水施設も老朽化し管の腐食も進んでいる。今後の維持管理費の負担で困ってはいるが、淡水化されていなければ腐食はひどく、もっと維持費が掛かっていたことだろう。

○今では、淡水化により塩害には悩まされることがなくなったが、その代わりに年間を通して排水機場に頼らなくてはならなくなったので、何か改善の方策はないか？

■漁業関係者

○堰上流の改善だけではなく、堰下流の改善につながる堰操作はないか。堰の運用の仕方によって下流の改善ができる検討をしてほしい。堰下流のシジミの生息環境の改善も考えてほしい。

○単なるゲートの開放だけで生態系を回復させようと言うものがいるが、現在、長良川がこの地域で果たしている水利用等の役割や機能について、木曽川や揖斐川等が代替できるのか。長良川だけでなく、木曽三川下流域全体を生活の場としているので、木曽三川全体の環境バランスを考えながら議論すべきである。

■沿川関係者

○検証には生物環境が重要。生物的な面をもっと行ってほしい。検討する上で必要な調査は実施しないと、検討会を開いても科学的な議論はできない。

○木曽三川下流部では、これまでの長い歴史の中で塩害と闘ってきた。住民として塩害が出ないような操作を希望する。

○深く広く排水路が整備されているのは塩害対策のためである。塩害はないと言われる人があるが、先人からずっと塩害被害を受け、これまで塩害防止対策に取り組んできたおかげである。渇水時には名古屋も苦労し、海外から水を輸入したと聞いた。普段は水に余裕があるように見えても、余裕がなければ渇水になると途端に大変なこととなる。

○河口堰とは関係ないが、長良川全体を良くするために、上下流の関係者が一同に集まり意見交換する場が欲しい。

○塩分を含む水で金魚を育てると発色がきれいとなるが、金魚を育ててばかりはいられない。トマトは塩分があると甘くなるが数多くは育たない。塩水化すると長島町は途端に塩に浸かる。今でも地面の下を掘ると塩水が出ることを忘れてはいけない。

○工水の利用者代表として、H6渇水では60%給水となり、水買いに走った。12万トンの水を買い付け、その際には海外（韓国）も検討した。今は河口堰で安定した供給が受けられており助かる。塩水の遡上は困る。

○年間で8万人が観光に訪れるため、水が安定的に確保されるのは大変助かる。昔は風水害保険にも入れなかった。河口堰が出来て今は保険に入れるようになった。「なばなの里」は高く盛土しているが、そのままでは今でも塩害のため、1m掘ると塩水が出て木が枯れる。塩に対する対策は十分にしてほしい。

○フラッシュ操作にあたっては、ウインドサーフィンなど川の流れに影響を受けやすいので、利用者に危険がおよばないように十分な広報をしてほしい。

○塩水を堰上流に上げない操作を行うのは当たり前なのに、その話ばかりなので、もっと前向きにフラッシュ操作についての議論をしてほしい。

○家庭を預かる主婦として、河川環境を考えて、川を汚さない石けんを作った。もっと普及するように推進を図りたい。